

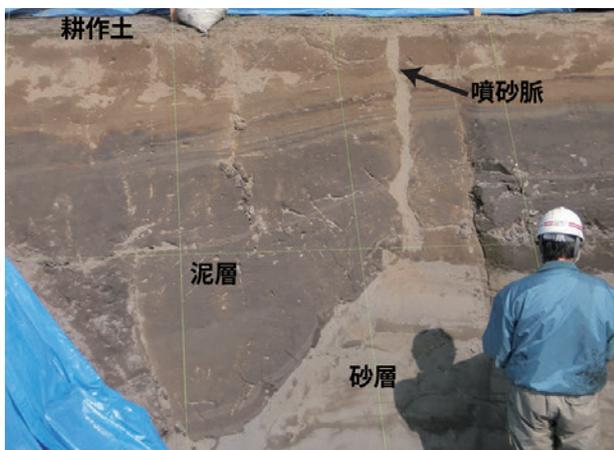
千葉県神崎町における液状化被害地域のトレンチ掘削調査

<水野清秀¹⁾>

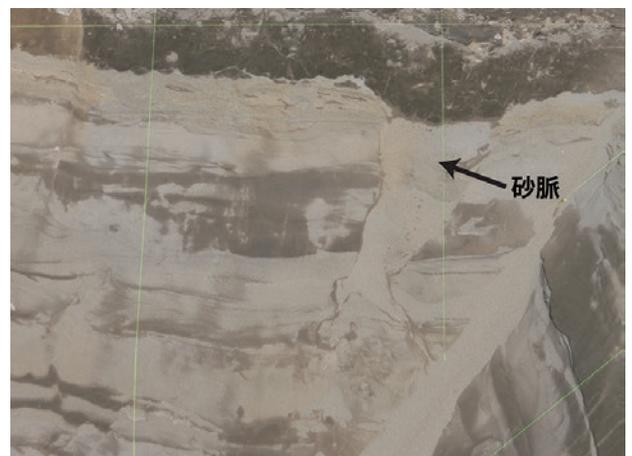
2011年に発生した東日本大震災では、東京湾岸から千葉県北東部や茨城県南東部の利根川流域で地盤液状化が発生することで多大な被害が出た。産総研ではこの液状化を起こした地層の構造を調査するために、千葉県環境研究センターと共同で、千葉県神崎町においてトレンチ掘削調査を行った。トレンチの壁面には多くの液状化による砂脈が見られ、この地層を保存するために剥ぎ取り標本を作製した。この剥ぎ取り標本は産総研の地質標本館に展示されている。



掘削したトレンチは、幅・長さ7m、深さ約3mの大きさである。壁面をねじり鎌を用いて整形し、地層の堆積構造を観察した。



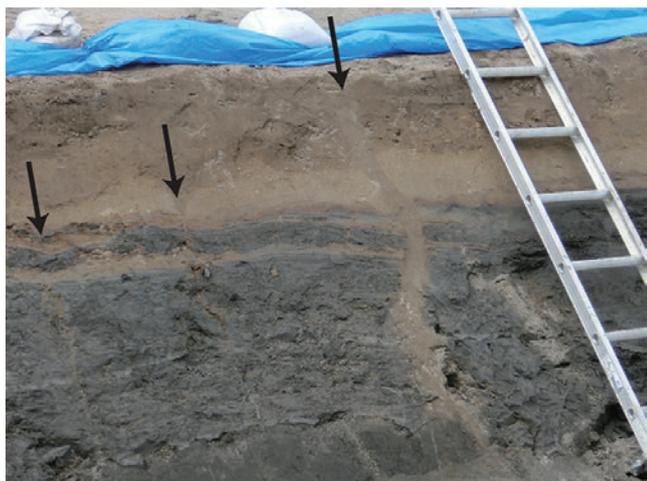
観察された地層は下位より、浚渫された砂層・泥層、そして表面に耕作土が重なる。砂層が液状化し、上位の泥層と耕作土を貫いて地表まで噴砂脈が形成されている（東側壁面）。



浚渫された砂層は液状化により全体的に堆積構造が乱されている。砂層中に砂脈（矢印）が観察され、上面でシート状に広がっている（東側壁面）。

1) 産総研 地質情報研究部門

MIZUNO Kiyohide (2013) Trench excavation survey at liquefied site in Kozaki Town, Chiba Prefecture.



泥層を貫通する噴砂脈（矢印）（西側壁面）.



泥層を貫通する小規模な噴砂脈（西側壁面）.



剥ぎ取りを行うために表面を整形した東側壁面.



トレンチ壁面に布を張り、樹脂を塗り込んでいる様子.



完成した剥ぎ取り標本、左側が上位.



産総研地質標本館で展示されている剥ぎ取り標本、高さ約3m.